



(この欄は小田夏里奈さんと辻井陽菜さんが業務として書いた記事をそのまま掲載しました。)

トライやるウィーク in 宿南地区自治協議会

6月2日(木)と3日(金)に、トライやるウィークとして、小田夏里奈と辻井陽菜が宿南地区自治協議会にきました!

1日目 青谿書院向かいの山の竹林整備, 宿南の魅力について考えるワークショップ (WS)

2日目 青谿書院 (講話と見学), 「ふるさと宿南」の記事作り

1日目の竹林整備は、癒しの里山プロジェクトの皆さんと一緒に作業をして、皆さんがこのような大変な作業をしているのだなあと感動しました。作業前と後の変化がすごいと感じました。



宿南の魅力について考えるWSでは、宿南にあつたらいいなと思うものとして、お花畑やお店、公園などがあり、それらを全て実現するためには、地域の多くの皆さんの協力や地域外の人たちに来てもらえるように、情報発信が必要だと思いました。

2日目の青谿書院では、学びの里プロジェクトの西村 正さんに池田草庵先生について今まで知らなかったお話を聞かせてもらいました。そのあとで自分たちが解説をすることを実践してみて大変難しく感じました。上手に説明するためには相当勉強しないといけないと思いました。

最後にこの記事を書きました。



学校田で田植えをしました



5月17日(火)、小学校田の田植えを営農組合の皆さんの指導で、例年は3・5年生ですが、今年は4年生も加わり総勢9人で行いました。最初に苗の持ち方・一株の本数・田植え綱での植え付け位置の説明があり、いよいよ実践。こども園の見学もあり「頑張る」の声援を受けながら、素足で田んぼの中に入りましたが、泥んこで足の移動が大変でした。最初は一筋植えるにも時間がかかっていましたが おわりの頃には上手になりました。

6月3日には紙マルチ式田植えを全校児童で見学しました。このマルチは溶けてなくなることで、草取りをしなくても良いこと、無農薬で栽培することなどの説明を受けて見学していました。



身近で見られる植物 ⑬

マタタビ（木天蓼）＜マタタビ科＞

この時期、林縁の緑の中に白く輝いているものが見ることがありますが、マタタビの葉が白く目立っているのです。近年、シカの食害で見られる場所が減っていると思いますが、三谷川の川縁で見られます。つる性の木本植物で、今の時期に葉の下側に花が咲いているのですが、葉の陰になって目立たないため、葉が白く輝き、花が咲いていることを虫に知らせています。



「猫にマタタビ」と言われるように、猫が大好きな植物です。虫こぶの出来た実は生薬として使われます。



クリーン但馬10万人大作戦

6月5日（日）、今年は小学生・中学生も参加して各地区で実施されました。

草刈り、ごみ拾いの他、地区により内容は異なりますが綺麗になりました。



ボウリング大会参加者募集中

締め切り6月20日（月）です。

お知らせ

- 6月17日（金） タウンミーティング
- 6月19日（日） 奉仕作業
- 7月 1日（金） 第1回文化部会
- 7月 2日（土） 交流ボウリング大会
- 7月 3日（日） 農家日役



草庵先生紹介

日記 40



入門の日。年若い入門希望者は親に連れられてくることが多かった。草庵（手前の背中向き）と面談して入門が決まった。

宮崎和夫さん作

「午後、高柳村（現・養父市）の福田達太郎、福田泰蔵、中尾左次馬が入門する。3人とも親父が召し連れて来る」（弘化4〈1847〉年2月19日） 日記「山窓功課」の中のこの記述は、池田草庵が青谿書院に移る前、まだ八鹿の立誠舎にいる時のものだ。立誠舎の入門者としては最後の方の3人である。父親がそれぞれ連れて来て、草庵と面談し入門となったようだ。入門するにはその時期が決まっているわけではなく、いつでも入門できた。年齢も今の小学校低学年くらいの子から、青年と言えるような者まであった。学ぶ期間も決まりなく、数カ月で退塾する者や二十数年で退塾する者など、いろいろであった。例えば、後に京都府知事となった建屋（現・養父市建屋）出身の北垣国道は、7歳（8歳という説もある）で立誠舎に入った。数年経って家業を継がせようとして親が退塾させることを考えた時、草庵が「この子は優れたところがある。このまま学問させれば、大器となる」（草庵30年祭での「北垣国道の祭文」）と親を説得した。北垣は草庵と共に青谿書院に移り、27歳の時に生野の変に参加するまで門人であった。天保14（1843）年5月に開塾した立誠舎では、最初の塾生は15人であった。「門人帳」によれば、立誠舎では62人の名前が記されている。門人帳は、今で言えば学校の卒業生台帳のようなものだ。草庵が自筆で書いている。この門人帳には、入門した年月、氏名、出身の村などが書かれている。しかし、門人の年齢とか、いつ退塾したかなどは書かれていない。この62人の門人を、門人帳に記された当時の地名で数えてみると、養父郡が、大半を占めて33人。養父郡以外の但馬内では城崎郡、朝来郡、美含郡、七味郡、二方郡などから21人となっている。但馬外からは8人で、この人たちは全員丹波から来ている。立誠舎では、養父郡内の人を中心に、但馬の人たちが大半を占めていた。立誠舎は、まだ借り住まいの塾であった。約4年後、ふるさと宿南の山あいにも自ら建てた青谿書院に塾生と共に移っていった。

池田草庵先生に学ぶ会